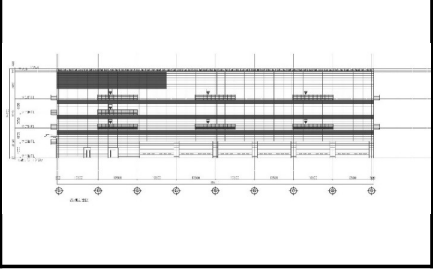


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜流通センター新築工事	階数	地上5F
建設地	厚木市上依知字藤塚丘1263-1他	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,088時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年5月12日
敷地面積	6,829 m <sup>2</sup>	作成者	㈱陣設計
建築面積	3,785 m <sup>2</sup>	確認日	2023年5月12日
延床面積	13,821 m <sup>2</sup>	確認者	㈱陣設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
相模線原麻駅からバスで20分の工業専用地域に、流通センターをS造、5Fにて計画した。	特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
-	階高は3.9m以上で、且つ設備・空間の「ランニング」の自由度が高い空間とした。
Q3 室外環境(敷地内)	-
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
-	自動水栓や節水型便器を採用。部材の再利用可能性向上の取り組みとして躯体と仕上げ材が容易に分別可能な設計とした。
-	LR3 敷地外環境
-	外に漏れる光の対策として広告物照明は行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される